

# 中学受験する？しない？



## いまどき! 私立中学 入試問題に ユニーク 挑戦!

私立中の入試に実際に出題されたユニークな問題をご紹介します。「こんな奇妙な問題……」と思われるかもしれませんが、どんな生徒に入ってほしいと考えているのか、それぞれの学校の考えが見えてきます。

### 求む! 論理的 思考力

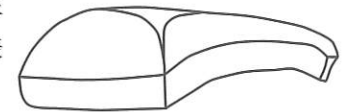
太郎君、次郎君、花子さん、桃子さんの4人がいます。4人はそれぞれ赤、青、緑、黄のいずれかのシャツを着ていて、左右1列に並んでいます。次の6つの情報から、4人の名前を左から順に答えなさい。また、それぞれの人が着ているシャツの色を答えなさい。[成蹊中学校]

- ① 太郎君は赤のシャツを着ていません。
- ② 青のシャツを着ている人は、緑のシャツを着ている人より右側で、黄のシャツを着ている人より左側にいます。
- ③ 桃子さんは左から2番目ではありません。
- ④ 女の子どうしはとなりあっていて、それぞれの女の子のとなりに男の子がいます。
- ⑤ 太郎君は一番左にはいません。
- ⑥ 赤のシャツを着ている人は、黄のシャツを着ている人のとなりです。

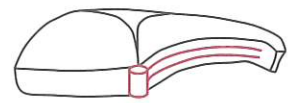
複雑そうに見えますが、順を追って論理的に考えれば答えが見えてきます。例えば④の条件からは、4人並んだ両端に男の子、その間に女の子2人がいることがわかります。  
【答え】左から、次郎君(緑)、花子さん(青)、桃子さん(赤)、太郎君(黄)

### 求む! 生活体験に 基づいた 知識

次の図は、サケの切り身の模式図です。脊つい骨(背骨)と、ろっ骨をそれぞれかき加えなさい。なお、脊つい骨は円柱(○)で、ろっ骨は実線(—)で表しなさい。[海城中学校]



魚類の骨格は教科書にも載っている一般的な知識ですが、魚の切り身がどうなっているかは、生活を通して得られる知識です。丸暗記の知識ではなく、生活体験に基づいた知識を持っているかどうかが問われています。  
【答え】右図





# 受験する、しないをどうやって決める？

中学受験をすることを決める段階で、中学受験に必要な「+α」の勉強に挑戦する意味や意欲、最終目標などをお子さんと話し合い、お子さんの気持ちをしっかりと受け止めることが重要です。学習進度や学校選びなどで不安があるようなら、塾の先生に相談するのもいいでしょう。

最後に、ちょっと厳しい話もしなければなりません。それは、「受験は、うまくいかないこともある」という現実です。いくら努力を重ねてきても、当日の体調やちょっとしたことで残念な結果に終わってしまうこともあるのです。そんなとき、ご両親もがっかりされるでしょうが、誰よりもショックを受けているのはお子さん本人です。つい、お子さんに対して否定的な言葉を口にしてしまいがちですが、まずは、受験まで頑張ってきたお子さんの努力を認め、今までの経験や身につけた力は必ず次につながることを伝えてあげてください。

では、最後に実際に中学受験で出題されたユニークな問題をご紹介します。

皆さんもぜひチャレンジしてみてください。

**Q**

大切なのは、本人としっかり話し合うことです。

**A**

受験する、しないは、どうやって決める？

私立中を受験することに決めるときに、一つだけ注意していただきたいこと——それは、お父さん、お母さんだけで盛り上がりすぎてしまわないことです。

目指す私立中に合格できる可能性を少しでも高めようと、ご両親が精一杯のことをしようとするお気持ちはわかります。しかし、肝心のお子さん本人に「その学校に行きたい」という気持ちがないと、どうしても「やらされている」感が強くなり、せっかくの努力も成果に結びつきにくいものです。

**Q**

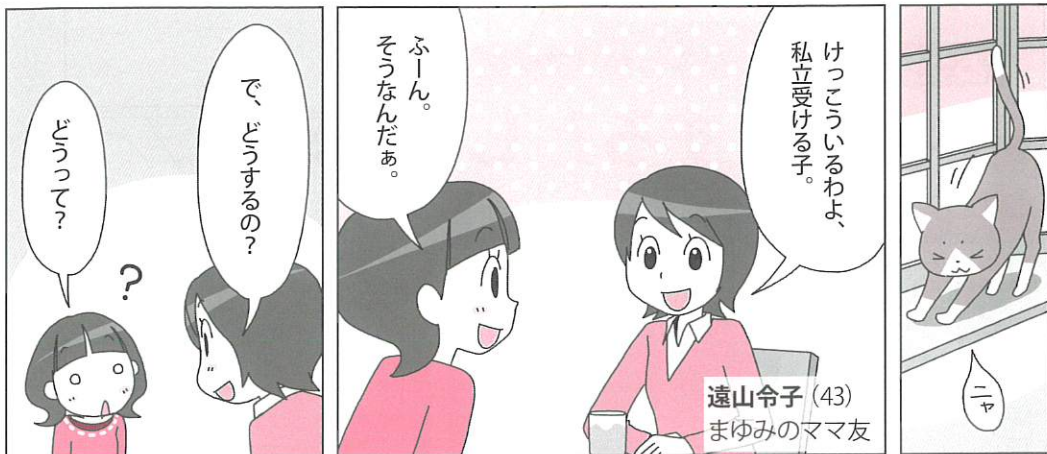
結果も大切ですが、まずは本人の努力を認めてあげてください。

**A**

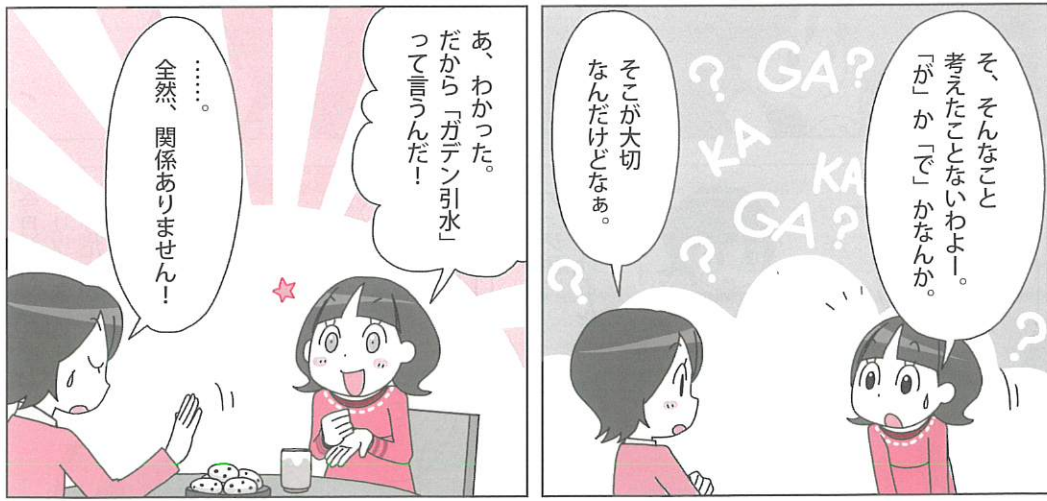
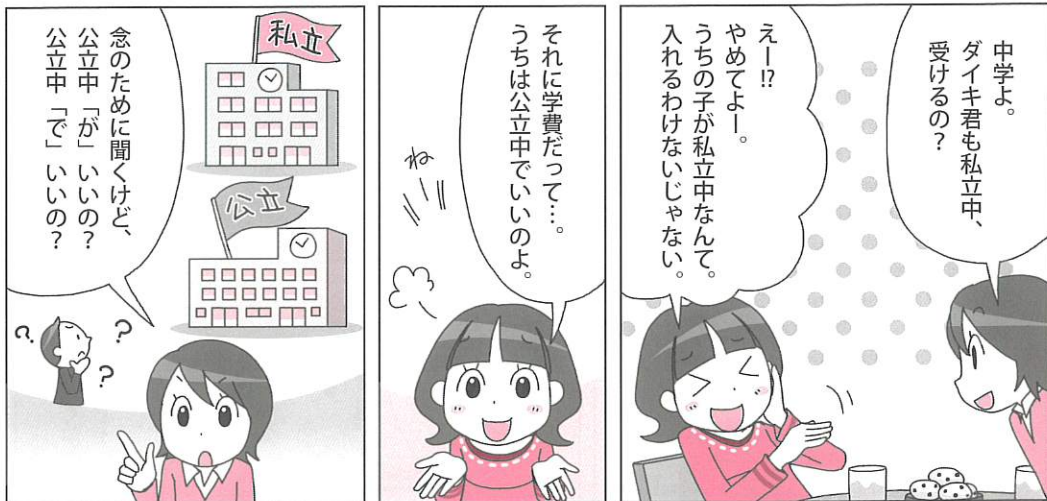
受験するとなった以上、何が何でも合格させなきゃ！

最後に、ちょっと厳しい話もしなければなりません。それは、「受験は、うまくいかないこともある」という現実です。いくら努力を重ねてきても、当日の体調やちょっとしたことで残念な結果に終わってしまうこともあるのです。そんなとき、ご両親もがっかりされるでしょうが、誰よりもショックを受けているのはお子さん本人です。つい、お子さんに対して否定的な言葉を口にしてしまいがちですが、まずは、受験まで頑張ってきたお子さんの努力を認め、今までの経験や身につけた力は必ず次につながることを伝えてあげてください。

中学受験を終えたご家庭からは「受験を通して親子の絆が深まった」「試練を乗り越える力がついた」といった声がよく聞かれます。成功は、一緒に喜び、挫折は力を合わせて乗り越えていく。中学受験で大切なのは、親子で力を合



遠山令子 (43)  
まゆみのママ友





# 最初から、「うちは公立」って決めてませんか？

**Q** ちゃんと検討して、その決断をしていますか？

**A** いいのよ、うちは公立で！

「おたくは中学受験、どうするの？」「いいのよ、うちは公立で」……こんな会話がよく聞かれています。

もちろん、公立中にも私立中にもそれぞれの良さがありますし、どちらに進むかは自由です。本人やご家族以外がとやかく言うことではありません。

ただ、一つだけ気になることがあります。「公立でいい」の「で」です。どうして「公立中」が「いい」と言わないのでしょうか。

私立中よりも公立中「が」いいと考えて公立に進むのは、立派な選択です。

しかし、きちんと検討することもなく、「どうせうちの子には、私立中は無理」と決め込んで「公立中」で「いい」と考えているのだとしたら、あまりにも投げやりな選択ではないでしょうか。

**Q** 実はそんなこともないんです。

**A** 中学受験するのって、トップ校ねらいの子ばかりなんでしょ。

「公立」で「いい」と考えてしまいがちな原因の二つに、「私立中は難しいところが多い」「中学受験は、トップ校ねらいの子がするもの」という、私立中や、中学受験についての誤ったイメージがあるように思われます。

確かに私立中の中には、超難関と言われるような学校もあります。

しかし、私立中のすべてがそういう学校というわけではありません。勉強以外の面でも様々な個性をもった私立中はたくさんあります。併設の高校、大学とのつながりが強く、公立の中、高と進むのとはまたちがった学生生活を送ることができる学校もあります。

「私立中に入るの大変」↓「うちの子には無理、必要ない」↓「公立中」で「いい」……と頭から決めつけてしまうのは、早計なのではないでしょうか。

うーん、公立中にするか、私立中を目指すか……。何を基準に考えたらいい？

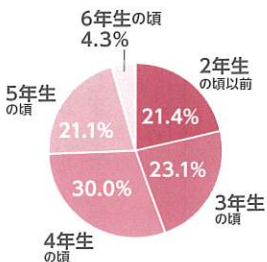
ではあらためて、それぞれの良さを見てみましょう。





# 私立を受けさせたいけど、もう間に合わない？

この時期から中学受験を見据えた学習を始めることで、つまずきや学び残しを防ぐ効果も期待できます。



【中学受験に関する調査】  
ベネッセ教育総合研究所(2012年)

大切なのは強い意識を持って取り組むこと。「やっぱり、受けさせてみようかな」といった程度では確かに難しいかもしれませんが、「この中学にぜひ入りたい、入りたい！」というモチベーションを持つことができれば、自ずと道は広がるのです。

それに加えて、塾の進路指導などを上手に利用すれば、スタートの遅れを挽回するための具体的な方策も見つかるはずですよ。

ああ、何だか絶対に私立中に行かせたいという気がしてきた！

落ち着いてください！ 受験をするのは、お子さんなんですよ。

**A** 私立中の受験対策、いつ頃から始めたらいいい？

**Q** 一般的には、3〜4年生頃から始めるケースが多いようです。

中学受験対策というのと、とにかく早い時期から始めなければならぬというイメージが強いようです。確かに一部の超難関校を目指す場合は、小学1・2年生から準備を始めるのが当たり前前……といったケースもあります。

しかし中学受験をする小学6年生の保護者にたずねたアンケートでは、3・4年生の頃から検討を始めたという方が多いようです。

実はこの3・4年生という時期は、小学校での学習が、質・量ともにアップするタイミング。

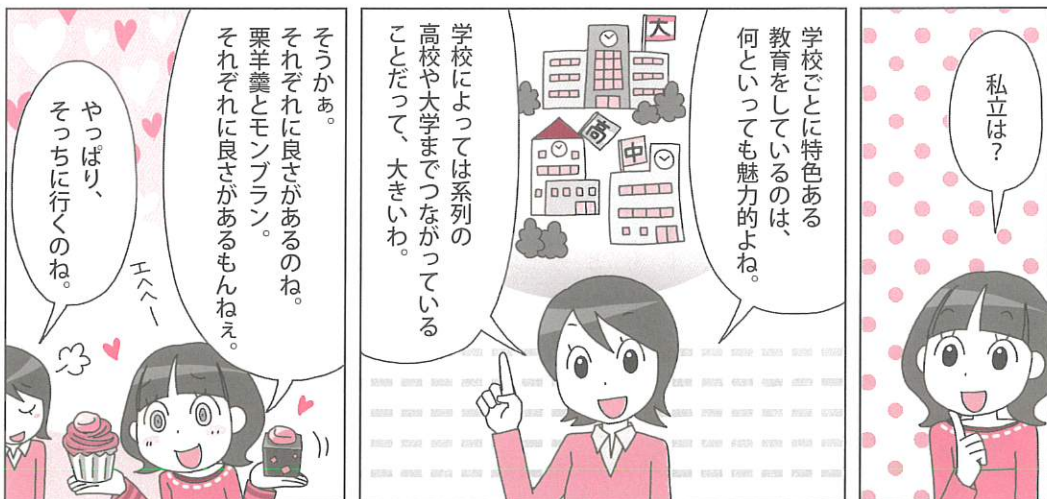
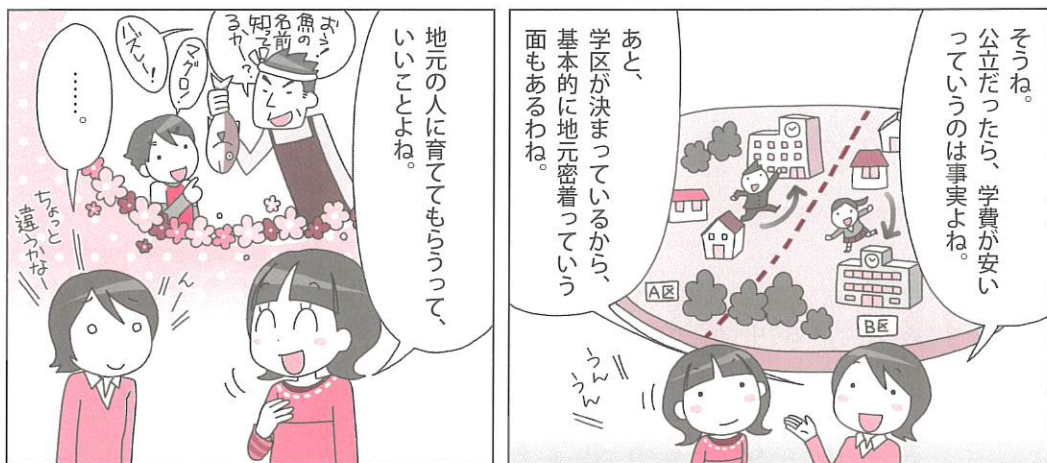
**A** 5・6年生で思い立っても、中学受験は間に合わない？

**Q** 確かに厳しいかも。でも、大切なのは、はっきりとした目的意識です。

3・4年生頃から準備を始めるのがベスト……とは言え、なかなかそううまくいくばかりではないのも現実です。

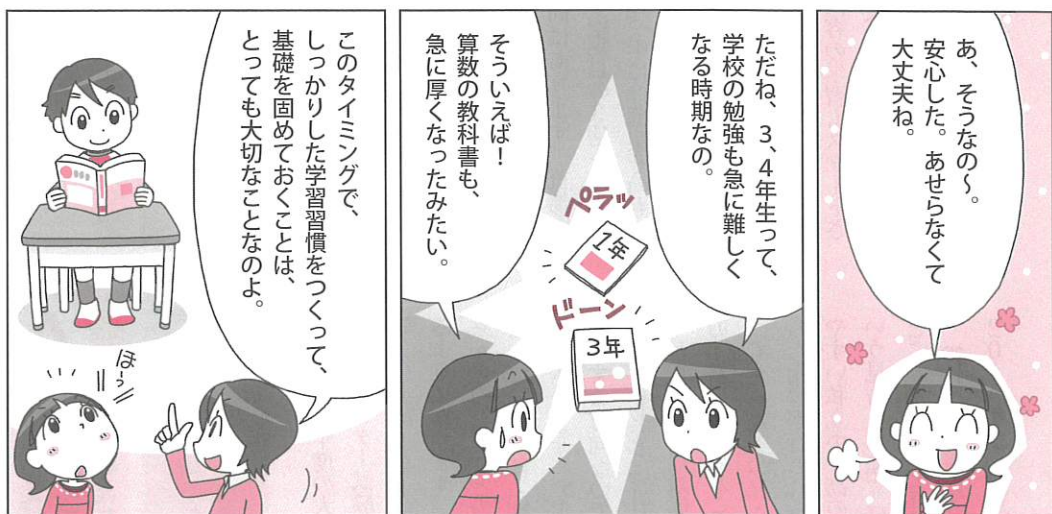
公立中がいいと思っていたけれど、やっぱり「私立中！」と思い立った。でも、子供はもう高学年。間に合わない……と、簡単にあきらめないうでください。スタートが遅れたのは残念ですが、だからといって可能性がゼロになったわけではありません。

大切なのは強い意識を持って取り組むこと。「やっぱり、受けさせてみようかな」といった程度では確かに難しいかもしれませんが、「この中学にぜひ入りたい、入りたい！」というモチベーションを持つことができれば、自ずと道は広がるのです。





# 「公立中の良さ」「私立中の良さ」って何？



**A** 公立中の良さって  
どんなこと？

**Q** 費用と通学時間、  
地元密着が  
公立中の良さです。

公立中の良さと言えば、何といっても費用の面は無視できないでしょう。入学金、授業料などがかからないのは、公立だからこそできることです。

原則として自宅から徒歩での通学が可能な近きにあることも利点と言えるでしょう。私立中の場合、どうしても通学に時間がかかってしまうことが多いのに対し、地元の中学校に通うことによる時間的なメリットは無視できません。通学中の安全面での不安も小さくすみます。

また、小学校から続く地元の方々とのつながりが保てることも忘れてはなりません。最近では、さまざまな面から近隣どうしの関係を大切にすることが見直されています。思春期の大切な時期に地域ぐるみで子供を育ててもらおうことの良さを、もう一度思い出し正しい時期なのではないでしょうか。

**A** 私立中の良さって  
どんなこと？

**Q** 学校ごとの、独自性のある  
教育を受けられます。

私立中の良さと言えば、何といっても学校ごとの個性ある教育でしょう。

公立中はどの学校でもある程度均質な教育を受けることができますが、反対に言えば、独自性のある取り組みには限界があるということ。

私立中は、学習指導要領に沿った学習と並行して、グローバル教育やキャリア教育、アクティブラーニングなど、公立中では難しい取り組みを行っているケースも多く見られます。私立中にいわれる進学校が多いのも、「難関の高校・大学への進学を念頭に置いた学習面に力を入れる」という特色の一つと言えるでしょう。

また、部活動が充実していたり、系列の高校・大学への進学に優遇制度があったりする面も、私立中を選択する理由の一つとなります。

確かに公立よりお金はかかりますが、その分、校舎や施設、設備が充実した学校も多く見られます。快適な学習環境も魅力となっています。

最初から私立中をあきらめちゃうのは、何だかもったいない気がしてきたけど……。でもやっぱり高いでしょ、私立は。

イメージでばかり考えないで、ちゃんとデータを見てみましょうね。



# 高校・大学を見据えた中学選び

これは、現在多くの私立中・高が、中高6年間を通じた学習プログラムを組んでいるから。大学受験対策を重視している学校では、中学のうちに前倒しで高校内容の学習もスタートさせ、高校2年生頃から大学受験対策に取り組み傾向にあります。途中からの入学者が多いと、こういったカリキュラムが組みにくいので、高校からの入学者は絞らざるを得ないのです。

2015年度の中学1年生からです。新しい大学入試制度の対象となるのは、ねらいは、知識偏重ではなく、思考力・判断力・表現力を測ることができるようになるため。もちろん、公立・私立を問わず、それに対応した指導が行われるはずですが、変化に対応しやすい私立中・高のほうが、やや有利か……という見方も。私立は英語教育に力を入れているところが多い点も注目すべきでしょう。

私立中を目指す人って、もうみんな準備を始めているのかしら？ 何だかあせってきちゃった。

受験対策と同時に、学習習慣を固め始める時期という考え方もあるのでは？

**Q**

私立高校を視野に入れているのなら、中学受験を検討する価値アリです。

**A**

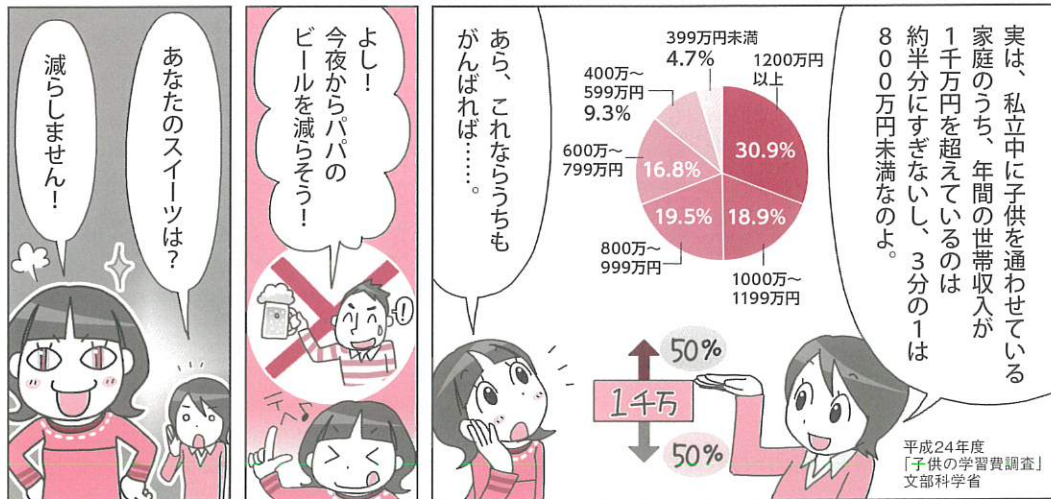
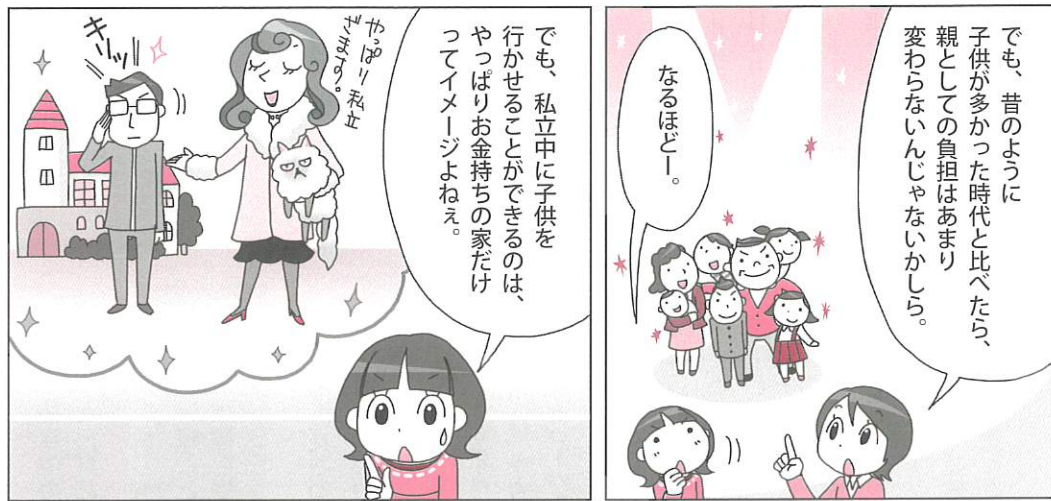
高校について考えるのは、中学に入ってからでいいと思っているんだけど…。

**Q**

公立中でも私立中でも問題ないはずですが……。

**A**

そういえば大学入試が変わるんですよ。いまから何か考えたほうがいい？





# 私立は本当に高い？

公立中は入学金や授業料などがかららないことを考えれば、私立中はお金がかかることは事実です。

では、いったいどれくらいかかるのでしょうか。文部科学省が発表した「平成24年度 子供の学習費調査」を見てみましょう。授業料や学校で使う教材費など「学校教育費」は、公立中が約13万円であるのに対し私立中は約100万円。やはり、8倍近い差になります。ただし、学校給食費は私立中のほうが少なく、塾や家庭教材けいこ事などの「学校外活動費」は私立中も公立中もほぼ同じため、学習費総額では、その差は3倍以下に縮まります。微妙な数字ではありますが、思ったほどの違いではないと感じた方もいらっしゃるのでは。

ただしこれは、あくまでも平均の数字。中には入学金とあわせた初年度納付金が150万円以上という学校もあります。

学校種別の学習費総額 (円)

	公立中	私立中
学習費総額	450,340	1,295,156
うち学校教育費	131,534	997,526
うち学校給食費	36,114	3,380
うち学校外活動費	282,692	294,250

平成24年度「子供の学習費調査」文部科学省

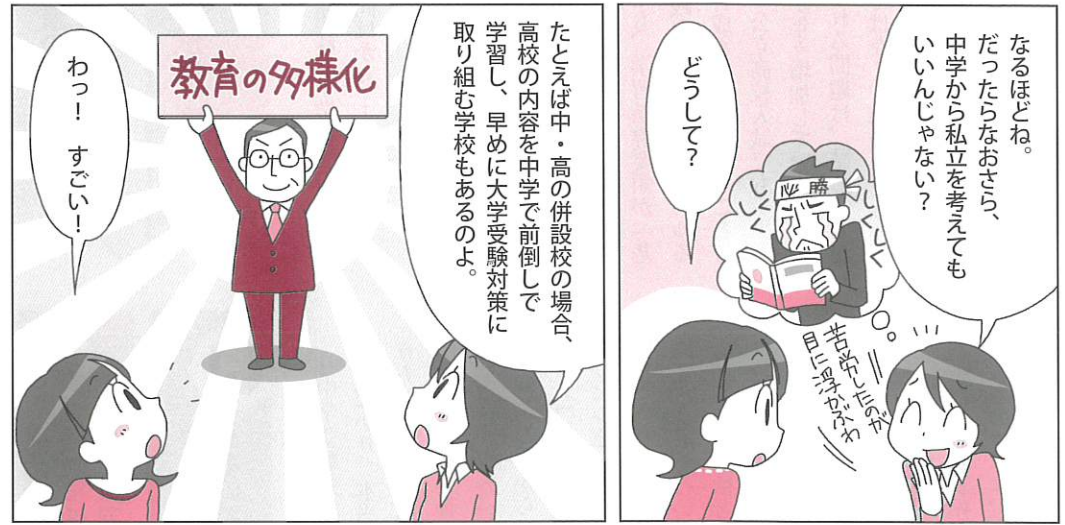
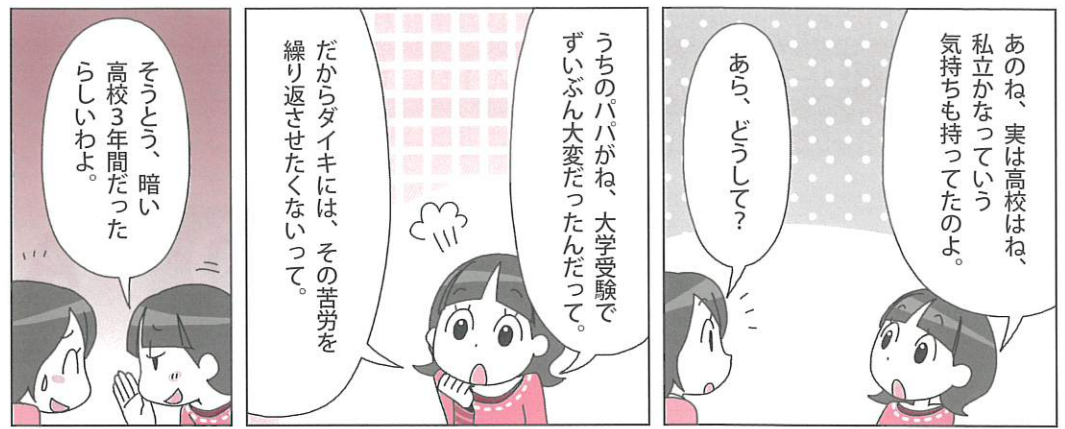
年間100万円の負担と考えると、やはり私立中に子供を通わせるのは富裕層だけのように思われがちです。

上記の「子供の学習費調査」では、私立中に子供を通わせている世帯の、収入別の割合も明らかにしています。それによると、1千万円以上の世帯が約半数。確かにイメージ通りのように思えます。しかし、見方を変えれば残りの半数の世帯は1千万円未満。約3割は800万円未満。

厚生労働省の国民生活基礎調査によれば、平成24年度の児童のいる世帯の平均年収は約670万円。私立中に行けるのはお金持ちだけではないと言えるのではないのでしょうか。

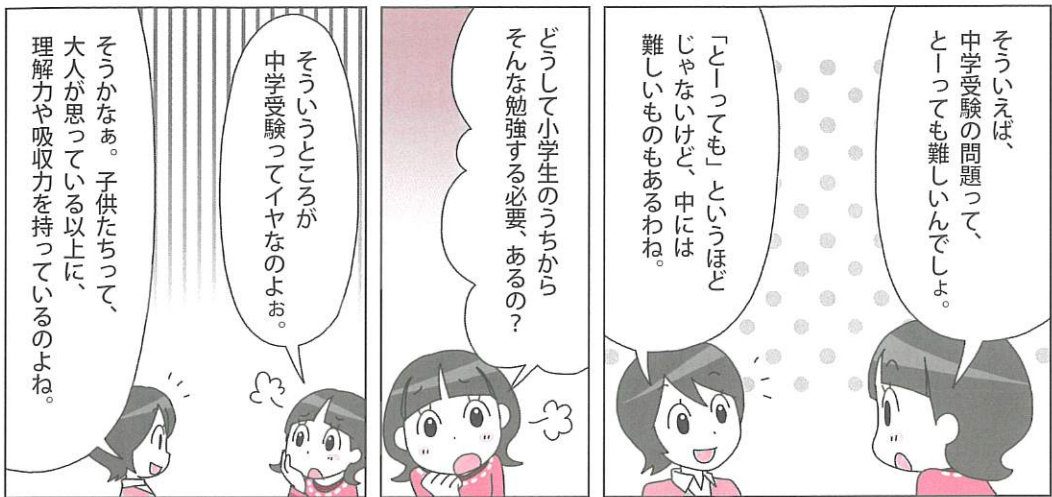
お金は何かなるかもしれないけど、私立中は入試があるでしょ。うちの子はそこが問題なのよね……。

入試に限らず、大切なのは基礎基本をしっかり身につけておくことなんです。





# 中学受験対策の勉強は意味がない？



**A** 中学受験対策の勉強って、  
ものすごく難しいんでしょ？

**Q** 「難問・奇問ばかり」は  
誤解です。

中学受験の試験問題は、小学校での学習範囲を超えた難問・奇問ばかり…というイメージがあるようです。

確かに、小学校では学習しない内容が出題されることがあるので、学校の学習+αの学習は必要でしょう。

しかし、それらの問題も、小学校の学習の延長線上にあることは確かです。また、いわゆるパズル的な問題にしても、学習指導要領が「基礎力」「思考力」「実践力」を備えた、いわゆる「21世紀型能力」の育成を重視していることを背景にしていますし、公立高校入試でも「思考力」が問われる問題が年々増加しています。

中学入試で出題される問題は、詰め込んだ知識のアウトプットではなく、知識をどう使っていくかに重点が置かれているため、小学生の思考力レベルでは解くことができない問題が出題されるわけではないのです。

**A** 「受験のため」だけの  
勉強には、あんまり意味が  
ないのでは？

**Q** 勉強に「ムダ」なんてことが  
あるのでしょ？

「中学受験対策は、問題を解くテクニックの練習ばかり。本当の学力に結びつかない」と言う方がいますが、問題の解き方を練習するのは、内容をきちんと理解できてからのこと。内容が理解できていなければ、テクニックを使うことすらできないからです。

また、「中学受験の内容は、小学校で学ぶべきレベルを大きく超えている」と指摘する方もいます。しかし、そもそも小学校の学習は、どんな子供でもついていけることを前提としたもの。本人の意欲と能力があるのなら、学年や小学校・中学校といった「枠」をはずして系統的に学んだほうが理解が深まることも多いのです。

中学受験対策で学ぶことは小学校での総復習であり、中学・高校への予習にもなります。中学受験のための勉強は「21世紀型能力」を小学生のうちから鍛えることと考えることができるのではないのでしょうか。

うーん、私立も良さそうだけど、高校からでいいんじゃないかなあ。

「中学」から行くからこそその良さもあるんです。